

港湾振興便り



2013. 11

第79号

*:**

目 次

*:**

1 ポートエッセイ 「北極海航路の利用に本腰を」
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

2 トピック

- 北九州市制50周年記念事業 津村島緑地オープン式典が開催されました
(北九州港振興協会)
- 「津波防災の日」総合防災訓練を実施
(近畿地方整備局 港湾空港部 近畿圏臨海防災センター)
- 境港 外港中野地区 国際物流ターミナル整備事業 着工記念式典を開催
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 「海女サミット2013inわじま」が開催されました
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

:

1 ポートエッセイ 「北極海航路の利用に本腰を」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

(株)JSNが出している「月刊ロシア通信」の11月号をいただいた。今回の特別企画「北極海航路の利用に中国が本腰」の記事が興味深かったので、概略を紹介する。

北極海航路は旧ソ連時代から活用され、年間660万トンの輸送実績があったそうだ。ソ連崩壊により100トン台まで落ち込んだが、昨年は300万トン台まで回復した。北極海に面したロシア中部のヤマル半島からアジア向けの東方ルートは現状では半年しか安定的な輸送ができないが、欧州向けの西方ルートは結氷がないので周年運行が可能という。

ロシア運輸次官によれば2020年には3000万トンまで伸ばす計画だ。その意気込みを裏打ちするように今年の夏期航海(7月—11月末)の利用申請は、8月20日段階で486件。前年が46件なので10倍以上の伸びとなった。ロシアでは現在、5隻の原子力砕氷船が貨物船の先導を行っているが、新たに2隻の砕氷船を全額国家予算で建造することが決定されたそうだ。

この北極海航路に大きな関心を向けているのが中国だ。今年5月には北極海沿岸8カ国で構成している北極評議会にオブザーバー国として参加し、評議会諸国との連携を強化している。今夏は中国の国営海運会社コスコの氷海航行用コンテナ船が、ロシアの許可を得て、初めて中国から北極海経由で欧州に向かった。従来のスエズ運河経由では48日かかるところを35日で航行したという。コスコでは他のコンテナ船も運行許可を取得。香港船籍の貨物船もこれに続いている。

韓国も動き出した。同じく5月に北極評議会のオブザーバーとなり、7月末には在サンクトペテルブルク総領事が北極海に面した拠点港湾都市ムルマンスクを訪れ、地域との連携を深めると共に、ロシアとの合弁で港湾を建設することを提案したという。

北極海航路に関しては本来、中国や韓国より日本の方が有利な地理的位置にある。中東の情勢が不安定なこともあって、今後、北極海航路はより大きな意味を持つようになるだろう。地球温暖化の象徴ともいえる北極海の氷だが、現実を直視しつつ、日本も北極海航路の活用に本腰を入れる時期にきていると思う。

:

2 トピック

*:

●北九州市制50周年記念事業 津村島緑地オープン式典が開催されました

(北九州港振興協会)

北九州市が新門司地区で整備をすすめていた「津村島緑地」が10月22日(火)一般開放されました。これを記念して朝10時から関係者を招いてオープン記念式典が開催されました。

式典では、北橋市長が、島を譲った地元住民の方々や緑地内の案内板に絵を描いた小学生へ感謝の言葉を述べ、来賓祝辞の後、テープカットが行われました。

続いて、案内板の除幕式が行われました。これは津村島に残る「神様の恋伝説」を紹介した案内板で、地元の松ヶ枝北小学校6年生の児童15人が描いた15枚の絵を使って説明されています。式典には、絵を描いた児童も招かれ、一人ずつ絵の紹介と合わせて伝説の説明を発表。児童に市長から感謝状が贈られました。式典終了後は、緑地の見学と、特別に島内の津村島神社を参拝しました。天気に恵まれたなか、参加者は緑地の自然を楽しんでいました。

津村島緑地は入園無料で、駐車場が2箇所完備していますが、お手洗いがありませんのでご注意ください。



●「津波防災の日」総合防災訓練を実施

(近畿地方整備局 港湾空港部 近畿圏臨海防災センター)

「津波防災の日」の11月5日、「堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点」において、近畿地方整備局と堺市の主催で、南海トラフの巨大地震を想定した総合防災訓練を、官民で33機関、総勢1000人により実施しました。

行政機関だけでなく、民間との連携を通して『自助・共助・公助』のバランスのとれた地域防災力の向上を図る訓練となりました。

第一部では、陸・海・空路よりそれぞれ搬入された支援物資を当拠点集積場で荷さばきし、近隣の広域防災拠点まで輸送する『緊急物資輸送訓練』を、海上では海洋環境船「Dr. 海洋」で航路上の津波による浮遊物を除去する『航路啓開訓練』を、そして電力・ガス・通信の各事業者や堺市上下水道局などによる『ライフラインの復旧訓練』など実践的な訓練を実施しました。

第二部では、自助・共助として自主防災組織や協力事業所とともに地元の看護学生や中学生らが協力して人命救助やバケツリレーによる消火訓練、自衛隊と中学生の協働による炊き出し訓練など、全体で約2時間にわたり官民の連携を意識した訓練内容となりました。



緊急物資輸送訓練



ライフライン復旧 (上下水道)



看護学生・救急など応急救護所でのトリアージ



自衛隊・中学生による炊き出し訓練

●境港 外港中野地区 国際物流ターミナル整備事業 着工記念式典を開催

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

境港の更なる国際競争力強化、地域経済活性化を図るため、3万トン級大型貨物船に対応した水深12mの岸壁等を整備する「境港外港中野地区国際物流ターミナル整備事業」の現地着工を記念して、赤澤前国土交通大臣政務官をはじめ、鳥取・島根両県知事等多数のご参列のもと、平成25年10月13日(日)に着工記念式典を開催しました。

また、式典終了後に開催した「境港の明日を語る会」では、境港を利用している企業を交え、境港の将来展望について物流や近年増加しているクルーズ船への早期の対応など活発な意見交換が行われました。



● 「海女サミット2013inわじま」が開催されました

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

平成25年10月26日(土)27日(日)の2日間、『海女サミット2013inわじま』が開催されました。

本サミットは、海女同士の交流を通して高齢化地域社会の持続や自然環境保護等の共通課題について考える機会を創出するとともに、世界農業遺産に認定された能登の里山里海の代表的な存在である海女文化を全国に発信し、観光振興等に結びつけ地域活性化を図り、さらに海女文化のユネスコ無形文化遺産登録に向け前進させる目的で開催されました。これまでは三重県鳥羽市、志摩市で3回開催された海女サミットが今回輪島市で開催されることになり、北は岩手県から南は長崎県までさらに韓国の海女22地区、計160人が集結しました。

10月26日は、輪島港近隣の光浦漁港海域でウエットスーツを着た地元輪島の海女10人が、アワビの稚貝約5000個を放流する様子を全国から集まった海女が見学しました。その後、全国海女とその関係者が集まり交流会が開催され、地元太鼓の演奏や各地区海女の元気な自己紹介等で非常に盛り上がりました。

10月27日は、輪島市文化会館において海女、聴衆含め約1200人(会館大ホールがほぼ満席状態)が参加してサミットが開催されました。

先ず歓迎アトラクションとして輪島市の伝統芸能で無形文化財に指定されている和太鼓「御陣乗太鼓」が披露され、次に梶輪島市長から開催挨拶、石川県谷本知事、三重県鈴木知事、北村衆議院議員、山田参議院議員、岡田参議院議員(林秘書代理出席)、大脇国土交通省大臣官房技術参事官より来賓祝辞がありました。

その後NP0海辺づくり研究会木村尚理事をコーディネーターに、上智大学あん・まくどなるど教授、海の博物館石原義剛館長、舳倉島奥津比咩神社中村裕宮司、12地区26人の海女をパネリストとしてパネルディスカッションが開催され、特に、岩手県久慈市の海女より東日本大震災の労苦を訴え会場を感動の渦に包み込む場面があり、更に輪島市海女の元気な挨拶で会場が最高潮に盛り上がるなど非常に有意義なパネルディスカッションとなりました。

その後、輪島海女代表が読み上げた大会アピールを採決、海女文化の交流を深めユネスコ無形文化遺産登録を目指すことをうたい、最後に次期開催地である志摩市大口市長が挨拶され閉幕しました。

某局連続テレビ小説で海女に注目が集まった中での開催となりマスコミも多数訪れ、全国テレビでの放映や各新聞で大きく取り上げられ、本サミットを通じた海女文化発信により港を含めた海と地域の活性化につながっていくことを祈念します。

